

# OSS Gateを 立ち上げよう

須藤功平  
クリアコード  
2015-12-15

OSS Gateとは  
継続的に  
OSS開発に  
参加する人を  
増やす**取り組み**

# OSS Gateに協力したい理由

- ✓ 人それぞれでよい
- ✓ 人それぞれがよい

# OSS

- ✓ ユーザーが自由に使える  
ライセンスが  
設定されたソフトウェア
- ✓ それだけ
- ✓ そういう**状態**が大事
- ✓ 自由である事が大事とかは関係ない

# OSSな状態のメリット

- ✓ 人それぞれ  
メリットを見い出せばよい
- ✓ 他の人が開発に参加しやすい
- ✓ 使うとき無料の事が多い
- ✓ かっこいい・流行っている
- ✓ なんかい
- ✓ ...

# OSS Gateに協力したい理由

- ✓ 人それぞれ  
    メリットを見い出せばよい
- ✓ サポートすることが好きだ
- ✓ 採用につながるかも
- ✓ かっこいい・流行っている
- ✓ なんかい
- ✓ 自由に使えるソフトウェアが増える

# OSS Gateに協力したい理由

- ✓ 人それぞれ  
    メリットを見い出せばよい
- ✓ 楽しそう
- ✓ 会社の宣伝になりそう
- ✓ 自分のOSSの協力者が増えそう
- ✓ 友達増えそう
- ✓ ...

# 立ち上げたい理由

やり方が  
わかった

# やり方

## 参加方法を 伝える

(いま参加していない人は方法がわからないだけ)

# 細かいことは必要ない

- ✓ 作法
- ✓ (暗黙の) ルール
- ✓ ...
- ✓ 失敗しないための情報

# なぜか

- ✓ どうせ最初はビクビクしている
  - ✓ さらに怯えさせる必要はない
  - ✓ 不安に思った時に伝えれば十分
  - ✓ = 不安な時に聞ける環境が重要

# それでも失敗したら

- ✓ 多くのOSSでは開発者は優しい
  - ✓ 少なくとも最初は
  - ✓ 理由：協力者を求めているから

# 反応する

- ✓ やりとりすると**楽しい**と感じる
- ✓ 取り込まれると**楽しい**と感じる

# OSS開発参加者を増やすには

- ✓ 参加方法を伝える
- ✓ 最初に参加する時にそばにいる
  - ✓ 不安に思ったところを随時フォロー
- ✓ **楽しむ**ことが大事だと伝える

# どうしてやり方を知ったか

## SEゼミ 2015

# SEゼミ

- ✓ 就職支援系の企画
  - ✓ 学生と企業をマッチング
- ✓ 技術的なテーマを軸に据える

# SEゼミ 2015

テーマ : OSS

# 参加学生

- ✓ OSS開発にすでに参加 (少し)
- ✓ OSSは使っているけど未参加  
(まあまあ)
- ✓ OSSを使っていることを無自覚  
(まあまあ)
- ✓ OSSってなに? (少し)

# 結果

- ✓ なにかしら開発に参加
  - ✓ issue報告
  - ✓ pull request
- ✓ 感想：楽しかった！

# 何をしたか

- ✓ 参加方法を伝える
- ✓ 最初に参加する時にそばにいる
  - ✓ 不安に思ったところを随時フォロー
- ✓ **楽しむ**ことが大事だと伝える

# 今後

- ✓ OSS開発参加者を増やしたい
  - ✓ 継続的に！
  - ✓ やり方はわかったので適用し続ける

# 課題1

- ✓ 対象者数に比例して  
フォローする人が必要

# フォロー

- ✓ フォローが始まったら  
しばらくべったり
- ✓ 同時に複数人のフォローは無理

# 課題2

- ✓ 継続的に対象者を集めることが  
難しそう
- ✓ 対象者を集められないとOSS開発に参  
加する人を増やせない

# 対象者

- ✓ OSS開発未参加者
  - ✓ OSS Gateに参加→参加経験者になる
  - ✓ 継続的に実施するたびに接点が減る

# 課題3

- ✓ 特定の人に負荷が集中しないようにする
  - ✓ **継続**の大きな障害になりうる
  - ✓ なすりつけ合いは避けたい
  - ✓ 例：OSSなんだから言い出したお前がやれよ！みたいなやつ

# 課題

1. 対象者 ↑ フォローする人 ↑
2. 継続的な対象者の発掘
3. 特定の人への負荷集中

# 課題1

対象者 ↑  
フォロワー ↑

# 課題1の解決案1

- ✓ OSS Gate参加者が  
次のフォローする人になる
- ✓ Rails Girlsスタイル

# 課題1の解決案2

- ✓ すでにOSS開発に参加している人を巻き込む
  - ✓ OSS開発に参加している人ならフォローすることは難しくない
  - ✓ ↑自分の経験を伝えればよいだけ
  - ✓ 対象者が自分が開発に参加しているOSSに参加するならメリットがある？

# 課題2

継続的な  
対象者の  
発掘

# 課題2の解決案1

## ✓ 啓蒙活動

- ✓ 「OSS Gateっていうのがあるよ！」  
といろんな人がWebに書く
- ✓ 「OSS Gateっていうのがあるよ！」  
といろんな人が口コミで伝える

# 課題2の解決案2

- ✓ OSSのイベントと併設
  - ✓ RubyKaigiとか
  - ✓ Rubyの開発に参加しよう！とか  
使用gemの開発に参加しよう！とか  
すればイベント開催側にもメリット  
がある？

# 課題3

# 特定の人への 負荷集中

# 課題3の解決案1

- ✓ やりたい人がやりたい事をやる
  - ✓ バザールスタイル
  - ✓ 必要に応じて協力者を募る
  - ✓ 備考：数がいないとまわらない

# 課題3の解決案2

- ✓ OSS Gateの目的徹底をがんばる
  - ✓ 目的：継続的にOSS開発に参加する人を増やしたい！
  - ✓ →目的に沿っているかを判断できる人が増える
  - ✓ →1人の中心人物なしでもまわる？

# 課題3の解決案3

- ✓ 頑張りすぎている人はそれ以上活動できないようにする
- ✓ 自分で負荷を調整するのではなくまわりが調整する